**第３学年２組　国語科学習指導案（略案）**

**平成３０年　月　日（　）第　校時**

１単元名　冬の楽しみ

本時の学習：冬の言葉を使って、五・七・五の文を作る

２（１）本時の目標

　　　五・七・五のリズムで冬の言葉を使って文を作ることができる

（2）評価規準

|  |
| --- |
| オ　言語についての知識・理解・技能 |
| 五・七・五のリズムを意識して分を作っている。 |

（３）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習内容・学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| 1 お正月にする遊びを挙げる    2　教科書にある「加留多とる…」を読み、五・七・五の文であることを確認する。  3　冬の言葉を使って、五七五のリズムで文を書く。  ４　身近な五七五を確認する。 | ・冬の言葉  ・五七五のリズム  ・五七五の文の作り方  ・身近な五七五 | ・前時の復習も兼ねて、本時の導入とする。  ・五七五の文と現代語訳を比較させることで、俳句が日本語にとってリズムのよい分であることを気付かせるようにする。  ・季語なども確認することで、冬の言葉を意識できるようにする。。  ・最初に児童個人で五七五の文を作らせることで、児童一人一人が五七五の文に向き合うようにする。  ・一人一人の俳句が出そろうことを確認した後、グループになり、一人が発表し、発表した者に他のメンバーが感想を言う活動を行うようにする。  ・聞く態度には十分  注意させる。  ・五七五をリズムよく読ませることで、俳句のリズムのよい日本語を意識できるようにする。  言：五七五の音の意識し、関心を持ったうえで文を作り、読むことができている。  ・本時で学んだ五七五がどのような形で生かされているのか例示をすることで理解できるようにする。 | ５  １０  ２０  １０ |